

選考委員のコメント

○ 児童の実態をしっかりと確認した上での取り組みである。著作権者の心情から、著作権を守ろうとする態度を育むという指導方法がとられているが、それをよりよく行うために、「全時において楽曲の良さを実感させる」「作曲者だけでなく、演奏者の心情も考えさせる」といった配慮をしている点が特徴的である。

○ 実際の楽曲を聴くことにより、子供たちが感じる自然な気持ちから作曲者の気持ちに触れ、著作権について考えさせる事は大変良い実践であり、きっかけであると評価する。

○ 何気なく聴いていた曲であっても、作曲者や演奏者が努力を積み重ね、著作物を大切に考えていることを理解する場面を設定している点は良い。小学校段階では、人を思いやる児童を育成していきたい。しかし、今回の学習は、「著作権」というものがあることを教師が説明することにとどまっているので、今後は児童の思考や活動につながる展開を期待したいと思う。

○ 音楽科で取り上げたのはよいが、<「著作権」という言葉への出会いとしての位置づけ>として扱っているので、作曲家や作品には著作権があるというところで留まってしまっている。今後の実践を期待したいと思う。

○ 音楽著作権の概念を直接扱うことを意図している点でユニークな実践である。作曲者や演奏者の想いという観点で著作者人格権の尊重を主たるテーマとしているが、作者演者が曲に込めた想いを中心とする音楽を鑑賞する学習活動に力点が置かれたため、知的財産権の尊重という意味での著作権制度の理解は不十分であったように思う。

○ 短時間で取り組めるようになっている。また、資料がコンパクトで使いやすい。島しょという教育現場で、島独自の具体的な取り組みになっており、指導案もコンパクトで活用しやすい。

○ 音楽での著作権教育は事例が少ないので、貴重な実践である。他方、ワークシートの③にもって行く前に、著作権についてどんな指導をしたのか、よく分からないのが残念である。

○ 小学校高学年はちょうど多くの子供たちが、ゲームや音楽をきっかけとしてインターネットに関わり始める頃であることを考えると、授業を「著作権」への出会いと位置付け、

創作者の立場になって考えることで、著作物を大切に思う気持ちを養うという視点は的確である。この授業を通じて、子供たちが生み出された作品を大切にしようという思いを持たせたとすれば、20分の授業でも大変大きな成果だと思う。

○作曲家と演奏家の比較する着眼点が良い。地域性の課題もよい。

○児童の実態の把握がしっかりしている。小中連携の視点から、中学校の学習指導要領をもとに小学校でどういう力をつけておかなければならないか明確になっている点が素晴らしい。音楽の従来の授業を少し視点を変えるだけで著作権教育になるという好事例である。どの学校の音楽の授業でも取り入れることができると思う。取り組みから、子どもたちがどう変容していったのかが明確に出ている。板書もとてもすばらしい。単時間の実践なので、今後継続的に実践を積み重ねてほしい。また、同様の授業を他教科にも広げてほしいと思う。